

# 医療現場の「今の当たり前」の発想を変えよう －みんながハッピーなタスクシフトのためのチーム医療－

近森正幸<sup>†</sup>第77回国立病院総合医学会  
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 4 (234-238) 2024

## 要旨

21世紀の急性期病院においては、高齢社会の進展とともに医療の高度化と手間のかかる高齢患者の増加により、業務の質と量が膨大となり医師、看護師だけで医療を行うことは不可能になった。近森病院（当院）では多くの医療専門職が病棟に常駐し病棟常駐型チーム医療が行われ、医師、看護師から周辺業務をタスクシフトすることで、医師、看護師はコア業務である診断と治療、看護判断と介入に専念できるようになり、医療、看護の質と労働生産性は高まり、飛躍的に労働環境の改善にもつながっている。

これらの実践のもとには医療現場の「今の当たり前」を変えた発想の転換がある。

多職種の医療専門職もコア業務に絞り込み、業務を標準化し、膨大な業務を安全、確実にこなせるルーチン業務を行い、さらには病棟に常駐し患者を診て判断し、介入を繰り返すことで専門性が高まり、それぞれの分野では主役となり、いきいきとやりがいをもって働いている。このように医師、看護師、多職種の医療専門職の機能を絞り込むことで、医療の質と労働生産性が向上し、患者数が増え単価も上がり、売り上げも上がることから、タスクシフトされるスタッフを増やす原資となり、診療報酬がつかなくても採算のとれるチーム医療となる。

看護においては、看護ケア以外の業務ばかりでなく、看護の周辺業務も多職種にタスクシフトすることが可能となり、看護のコア業務に絞り込むことができ、さらには、看護師の労働環境の改善から医師のより高度な標準化できる業務を診療看護師や専門看護師、認定看護師、特定看護師として、看護師が行うことができるようになり、さらに病院のマネジメント業務を行うことで、病院運営の中核の実戦部隊となり、看護の質と労働生産性はさらに向上している。

キーワード 高齢患者の増加、病棟常駐型チーム医療、タスクシフト

## はじめに

近森病院（当院）は高知の駅前にある急性期の基

幹病院512床で、マネジメントで自己変革を続けてきた。

マネジメントの本質は Focus（集中）であり、

社会医療法人近森会 近森病院 相談役 †医師  
著者連絡先：近森正幸 社会医療法人近森会 近森病院 相談役  
〒780-8522 高知県高知市大川筋1-1-16  
e-mail：masayuki-c@chikamori.com  
(2024年2月29日受付 2024年6月14日受理)

Changing the “Current Common Sense” Way of Thinking in the Medical Field: Team Medicine for Task Shifting that Satisfies Everyone

Masayuki Chikamori Chikamori Hospital  
(Received Feb. 29, 2024, Accepted Jun. 14, 2024)

Key Words : increase in the number of elderly patients, team medicine with permanently assigned ward staff, task shifting